

創世記6-8章「世界規模の洪水」

導入

今日は、創世記6-8章へと学びを進めていきます。

この箇所は、地球上で起こった史上最悪の災害について語ります。この箇所には多くの内容が詰まっていますので、4つのセクションに分けて話していきましょう。

まず、6章1-12節に記されているのは、洪水が起こった理由です。

次に、洪水が起こる前になさなければならない備えについてです。これは6章13節～7章16節に記されています。

そして、洪水が実際に起こった出来事が7章17節～8章14節に登場します。

最後に、神がご自身の被造物と契約を交わされます。8章15-22節です。

今日は最初に6-8章を全部読むことはしません。4つに分けた箇所を、それぞれ読んでから学んでいきたいと思えます。

1. 洪水の理由 (6 : 1-12)

6:1 さて、人が地上にふえ始め、彼らに娘たちが生まれたとき、6:2 神の子らは、人の娘たちが、いかにも美しいのを見て、その中から好きな者を選んで、自分たちの妻とした。6:3 そこで、【主】は、「わたしの霊は、永久には人のうちにとどまらないであろう。それは人が肉にすぎないからだ。それで人の齢は、百二十年にしよう」と仰せられた。6:4 神の子らが、人の娘たちのところに入り、彼らに子どもができたころ、またその後にも、ネフィリムが地上にいた。これらは、昔の勇士であり、名のある者たちであった。6:5 【主】は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。6:6 それで【主】は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。6:7 そして【主】は仰せられた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜やほうもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを残念に思うからだ。」6:8 しかし、ノアは、【主】の心にながらっていた。6:9 これはノアの歴史である。ノアは、正しい人であって、その時代にあっても、全き人であった。ノアは神とともに歩んだ。6:10 ノアは三人の息子、セム、ハム、ヤペテを生んだ。6:11 地は、神の前に墮落し、地は、暴虐で満ちていた。6:12 神が地をご覧になると、実に、それは、墮落していた。すべての肉なるものが、地上でその道を乱していたからである。

この箇所を読むと、当時の地上は悪で満ちていたことがわかります。神は人を造ったことを後悔されるほどに心を痛められたと語ります。人類にとっても神ご自身にとっても、悲惨な状態でした。

1-4節は、聖書の中でも議論を呼ぶ箇所です。

「神の子」や「ネフィリム」または「巨人」などという言葉が神学者を長年悩ませてきました。その正しい解釈は大きな課題です。

けれども、みことば自体がみことばの解釈をしてくれるという考えを私は常に持っています。聖書における疑問に答えを見出すことを神が御望みであれば、結論を出す前に聖書全体を調べるべきです。

では、「神の子」とは誰のことでしょう。

ヘブル語では「ブネイ・エロヒム」です。この単語は、旧約聖書ではよく御使いを指して使われました。

一例としては、ヨブ記1：6に次のようにあります。

ヨブ 1:6 ある日、神の子らが【主】の前に来て立ったとき、サタンも来てその中にいた。

ヨブ記2：1でもほぼ同じことばが繰り返されます。

ヨブ記38：7では、神がこの世をお造りになったとき、「神の子ら」がその周りにいたことが示されています。

聖書には、「神の子ら」の別の使い方があります。そのヘブル語の意味は「力ある者の子ら」です。詩篇29：1や詩篇89：6に登場します。

ここで詩篇89：6をお読みします。

詩 89:6 まことに、雲の上ではだれが【主】と並びえましょう。力ある者の子らの中でだれが【主】に似ているでしょう。

もし聖書全体で一貫して「神の子ら」が「御使い」を指しているなら、モーセがこの個所で「神の子ら」と記したのは天使を指していることに疑いの余地はありません。

聖書に登場する天使は常に男性です。女性や中性はありません。

ダニエルは9：21で、天使ガブリエルのことを「あの人、ガブリエル」と呼びます。「人」と訳された単語は「男」という意味もあります。

天使ガブリエルは、ヨセフとマリヤにイエスのご降誕について告げたことで知られています。

ガブリエルという名は「神の人（男）」という意味です。

聖書に登場する天使は、人間に見えるかたちになると男性に見間違われます。

創世記8：1-2でアブラハムは3人の人に出会います。彼らは天使でした。また、福音書のふたりの著者が、主の復活の後で墓の周辺に男性がいたと御使いを表現しています（マルコ16：5-7、ルカ24：4-7）。さらに、使徒1：10-11で、白い衣を着た人がふたりいたと天使について記されています。

ですから、創世記6章に登場する「神の子ら」が人の娘を妻としたという内容は、「神の子ら」が御使いであるならつじつまが合います。

新約聖書にもこれを裏付ける個所があります。

ペテロ第二2：4-5を読みましょう。

2:4 神は、罪を犯した御使いたちを、容赦せず、地獄に引き渡し、さばきの時まで暗やみの穴の中に閉じ込めてしまわれました。 2:5 また、昔の世界を赦さず、義を宣べ伝えたノアたち八人の者を保護し、不敬虔な世界に洪水を起こされました。

ユダ6節にも注目すべき個所があります。

ユダ 1:6 また、主は、自分の領域を守らず、自分のおるべき所を捨てた御使いたちを、大いなる日のさばきのために、永遠の束縛をもって、暗やみの下に閉じ込められました。

新約聖書の著者は、読者が旧約聖書を理解している前提で書いているので、この個所に示されている内容は明らかであると思います。

簡単な言葉に言い換えると、天使たちはいつも住んでいた場所を離れて人間の女性と性的関係を持ったということです。彼らは、自分たちが造られたときに意図されていなかったことをしたのです。

ペテロ第二2:4は、彼らが地獄に引き渡され、さばきの時まで暗やみの穴の中に閉じ込められてしまったと語ります。

これは神の目に大罪でした。これも、世界規模の洪水が起こった一因でした。

なぜ墮天使が人間の女性と性的な関係を持つようになったのかは定かではありません。しかし、サタンは女の子孫がいつの日か自分を破壊するためにやってくることを知っていました。それで、人間の女性を汚せば、神のご計画がふいになると思ったのかもしれない。

サタンは神のご計画をぶち壊そうと常にたくらんでいます。しかし、神はサタンよりも偉大なお方ですから、すべてのご計画や目的を掌握しておられます。

墮天使たちの罪の結果、この世に奇妙な人たちが生まれました。ヘブル語で「ネフィリム」と呼ばれましたが、その意味は「墮ちた者たち」です。

残念ながら、多くの聖書がこの単語を「巨人」と訳します。こうした訳は、一世紀当時の日常に置き換えようという試みでしたが、これらの人々を正確に表す訳ではありません。

「巨人」という誤訳によって、サウジアラビアのガス爆発で巨人の人骨が出土したというような怪しいニュースも出回りました。これは、画像修整ソフトで合成された画像とともにインターネットで拡散されました。

また巨人の足跡が見つかったというものもありました。

しかし、この足跡は花崗岩についているので、まだ固まらないうちに裸足でその上を歩いたことになります。その表面温度は800度くらいだったでしょう。巨人でもそんな熱い地面の上を歩けるはずがありません。

ですから、この個所のヘブル語を正しく訳すと「墮ちた者たち」です。こうすれば、内容とも矛盾がありません。

ここで覚えておくべき重要な点は、墮天使の行いと地上の諸悪が神の心を悲しませたということです。

私たちは、神が心を痛めるお方だということを見過ぎしがちです。

けれども、私たちは神のかたちに造られています。私たちの心は悲しみを感じます。

今までで一番心が痛み、悲しかった出来事を思い浮かべてください。そうすれば、神がなぜ世界規模の洪水を引き起こして、ご自身が創造された人間をほぼすべて滅ぼされたのか、神の心が少しは分かるのではないのでしょうか。

創世記6:7そして【主】は仰せられた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜やはうもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを残念に思うからだ。」

これは非常に悲しい内容ですが、8節は違います。

創世記6:8しかし、ノアは、【主】の心にながらっていた。

9節には、ノアは正しい人であったと記されています。彼は邪悪な時代にいた全き人であり、神とともに歩きました。洪水後の新しい世の中を始める人として、神がノアを選ばれたのも不思議ではありません。

「神とともに歩む」という表現は、当時可能であったもっとも親しい交わりを表現しています。

創世記5：24で、エノクは神とともに歩いていましたが、神とともにいるために突然天国に連れていかれました。神は、ノアを天国にはまだ連れて行かれませんでした。大きな務めがあったからです。

では、洪水への備えに話を進めましょう。

2. 洪水への備え (6：13-7：16)

6:13 そこで、神はノアに仰せられた。「すべての肉なるものの終わりが、わたしの前に来ている。地は、彼らのゆえに、暴虐で満ちているからだ。それで今わたしは、彼らを地とともに滅ぼそうとしている。6:14 あなたは自分のために、ゴフェルの木の箱舟を造りなさい。箱舟に部屋を作り、内と外とを木のやにで塗りなさい。6:15 それを次のようにして造りなさい。箱舟の長さは三百キュビト。その幅は五十キュビト。その高さは三十キュビト。6:16 箱舟に天窗を作り、上部から一キュビト以内にそれを仕上げなさい。また、箱舟の戸口をその側面に設け、一階と二階と三階にそれを作りなさい。6:17 わたしは今、いのちの息あるすべての肉なるものを、天の下から滅ぼすために、地上の大水、大洪水を起こそうとしている。地上のすべてのものは死に絶えなければならない。6:18 しかし、わたしは、あなたと契約を結ぼう。あなたは、あなたの息子たち、あなたの妻、それにあなたの息子たちの妻といっしょに箱舟に入りなさい。6:19 またすべての生き物、すべての肉なるものの中から、それぞれ二匹ずつ箱舟に連れて入り、あなたといっしょに生き残るようにしなさい。それらは、雄と雌でなければならない。6:20 また、各種類の鳥、各種類の動物、各種類の地をはうものすべてのうち、それぞれ二匹ずつが、生き残るために、あなたのところに来なければならない。6:21 あなたは、食べられるあらゆる食糧を取って、自分のところに集め、あなたとそれらの動物の食物としなさい。」6:22 ノアは、すべて神が命じられたとおりにし、そのように行った。

7:1 【主】はノアに仰せられた。「あなたとあなたの全家族とは、箱舟に入りなさい。あなたがこの時代にあって、わたしの前に正しいのを、わたしが見たからである。7:2 あなたは、すべてのきよい動物の中から雄と雌、七つがいつつ、きよくない動物の中から雄と雌、一つがいつつ、7:3 また空の鳥の中からも雄と雌、七つがいつつを取りなさい。それはその種類が全地の面で生き残るためである。7:4 それは、あと七日たつと、わたしは、地の上に四十日四十夜、雨を降らせ、わたしが造ったすべての生き物を地の面から消し去るからである。」7:5 ノアは、すべて【主】が命じられたとおりにした。7:6 大洪水が起こり、大水が地の上にあったとき、ノアは六百歳であった。7:7 ノアは、自分の息子たちや自分の妻、それに息子たちの妻といっしょに、大洪水の大水を避けるために箱舟に入った。7:8 きよい動物、きよくない動物、鳥、地をはうすべてのものの中から、7:9 神がノアに命じられたとおりに、雄と雌二匹ずつが箱舟の中のノアのところに入って来た。7:10 それから七日たって大洪水の大水が地の上に起こった。7:11 ノアの生涯の六百年目の第二の月の十七日、その日に、巨大な大いなる水の源が、ことごとく張り裂け、天の水門が開かれた。7:12 そして、大雨は、四十日四十夜、地の上に降った。7:13 ちょうどその同じ日に、ノアは、ノアの息子たちセム、ハム、ヤペテ、またノアの妻と息子たちの三人の妻といっしょに箱舟に入った。7:14 彼らといっしょにあらゆる種類の獣、あらゆる種類の家畜、あらゆる種類の地をはうもの、あらゆる種類の鳥、翼のあるすべてのものがみな、入った。7:15 こうして、いのちの息のあるすべての肉なるものが、二匹ずつ箱舟の中のノアのところに入った。7:16 入ったものは、すべての肉なるものの雄と雌であって、神がノアに命じられたとおりであった。それから、【主】は、彼のうしろの戸を閉ざされた。

神はノアに、すべての生き物を滅ぼす洪水を地上にもたらすとおっしゃいました。しかし神は、ノアとその家族、そして地上に住むすべての動物一対だけお救いになります。

この目標を達成するため、ノアは神の命令に従って、自分と家族と動物が暮らせる大きな船を作らなくてはなりません。

オランダで、ノアの箱舟の原寸大レプリカを作ろうとした人がいます。

実際のノアの箱舟もこの写真のような姿だったかもしれません。

ここで重要なことがいくつかあります。まず、聖書に記された寸法は正しいものであることです。次に、ノアは神の命令に従いました。こうして、家族や動物たちを収容するとともに、十分な食物も保管し、嵐に耐え得る船を作ることができました。

この船は、現代の船のように運搬目的ではありません。来たるべき世界規模の嵐に耐えることが目的です。動物と家族のための避難所を提供する船でした。

16節から、この箱舟には窓と戸がひとつずつしかなかったことがわかります。箱舟の戸口は側面にあります。船は少なくとも三階建てでした。

この箱舟を作るには、ずいぶん長い期間を要したことでしょう。ノアは、助けが必要でした。ペテロ第二2:5には、ノアが義を宣べ伝える人であったとあります。ノアは、人々に洪水が来ると警告し、神のメッセージを告げ知らせていたはずで

ヘブル 11:7 信仰によって、ノアは、まだ見ていない事らについて神から警告を受けたとき、恐れかしこんで、その家族の救いのために箱舟を造り、その箱舟によって、世の罪を定め、信仰による義を相続する者となりました。

7章1節で、ノアは箱舟に入るように命じられます。神がノアを箱舟へと招かれたのは、彼が正しい人だったからです。箱舟に全員が入るのに7日間かかりました。

この16節で大切なのは、戸を閉められたのは神だったことです。後の適用部分に来ると、その重要性がわかります。

3. 洪水が起こる。(7:7-8:19)

7:17 それから、大洪水が、四十日間、地の上にあった。水かさが増していき、箱舟を押し上げたので、それは、地から浮かび上がった。 7:18 水はみなぎり、地の上に大いに増し、箱舟は水面を漂った。 7:19 水は、いよいよ地の上に増し加わり、天の下にあるどの高い山々も、すべておおわれた。 7:20 水は、その上さらに十五キュビト増し加わったので、山々はおおわれてしまった。 7:21 こうして地の上を動いていたすべての肉なるものは、鳥も家畜も獣も地に群生するすべてのものも、またすべての人も死に絶えた。 7:22 いのちの息を吹き込まれたもので、かわいた地の上にしたものはみな死んだ。 7:23 こうして、主は地上のすべての生き物を、人をはじめ、動物、はうもの、空の鳥に至るまで消し去った。それらは、地から消し去られた。ただノアと、彼といっしょに箱舟にいたものたちだけが残った。 7:24 水は、百五十日間、地の上にふえ続けた。

8:1 神は、ノアと、箱舟の中に彼といっしょにいたすべての獣や、すべての家畜とを心に留めておられた。それで、神が地の上に風を吹き過ぎさせると、水は引き始めた。 8:2 また、大なる水の源と天の水門が閉ざされ、天からの大雨が、とどめられた。 8:3 そして、水は、しだいに地から引いていった。水は百五十日の終わりに減り始め、 8:4 箱舟は、第七の月の十七日に、アララテの山の上にとどまった。 8:5 水は第十の月まで、ますます減り続け、第十の月の一日に、山々の頂が現れた。 8:6 四十日の終わりになって、ノアは、自分の造った箱舟の窓を開き、 8:7 鳥を放った。するとそれは、水が地からかわききるまで、出たり、戻ったりしていた。 8:8 また、彼は水が地の面から引いたかどうかを見るために、鳩を彼のもとから放った。 8:9 鳩は、その足を休める場所が見あたらなかったので、箱舟の彼のもとに帰って来た。水が全地の面にあったからである。彼は手を差し伸べて鳩を捕

らえ、箱舟の自分のところに入れた。8:10 それからなお七日待つて、再び鳩を箱舟から放った。8:11 鳩は夕方になって、彼のもとに帰って来た。すると見よ。むしり取ったばかりのオリーブの若葉がそのくちばしにあるではないか。それで、ノアは水が地から引いたのを知った。8:12 それからなお、七日待つて、彼は鳩を放った。鳩はもう彼のところに戻って来なかった。8:13 ノアの生涯の第六百一年の第一の月の一日になって、水は地上からかわき始めた。ノアが、箱舟のおおいを取り去って、ながめると、見よ、地の面は、かわいていた。8:14 第二の月の二十七日、地はかわききった。8:15 そこで、神はノアに告げて仰せられた。8:16 「あなたは、あなたの妻と、あなたの息子たちと、息子たちの妻といっしょに箱舟から出なさい。8:17 あなたといっしょにいるすべての肉なるものの生き物、すなわち鳥や家畜や地をはうすべてのものを、あなたといっしょに連れ出しなさい。それらが地に群がり、地の上で生子、そしてふえるようにしなさい。」8:18 そこで、ノアは、息子たちや彼の妻や、息子たちの妻といっしょに外に出た。8:19 すべての獣、すべてのはうもの、すべての鳥、すべて地の上を動くものは、おのおのその種類にしたがって、箱舟から出て来た。

7章17-24節には、神が起こされた洪水が40日間続いたとあります。箱舟は地面を離れて水面に浮かびました。山も丘もすべてが水の中に沈みました。明らかに「世界的洪水」です。21節は、すべての肉なるものは、鳥も家畜も獣も地に群生するすべてのものも死んだと語ります。すべての生き物が滅ぼされたのです。

生き残ったのは、ノアとその家族、そして、ノアが命じられて地上から避難させた動物たちだけでした。

洪水は40日間でしたが、地上は150日間水に覆われていました。(7:24)

ノアと家族は、神が戸を開いて彼らを外に出されるまでの371日間、箱舟の中にいました。ですから、1年以上船の中にいたこととなります。

これほどの大きな船が必要だったのはそのためです。動物にもノアと家族にもその間の食物が必要です。

動物が占めていたのは船の面積の約6割で、残りの4割は動物と人間の食料だったと考えられています。

8章4節には、第七の月の十七日に箱舟がアララテ山の上にとどまったとあります。ですから、巨大な大なる水の源が張り裂けたときから約5カ月後です。水はその後3カ月間減りつづけました。(5節)

洪水が始まって8カ月が経ち、6節には、ノアがあと40日間待つて箱舟の窓を開いたとあります。ですから、すでに洪水が始まって9カ月以上になります。

2度目に鳩を放したとき、鳩はむしり取ったばかりのオリーブの若葉をくわえて帰ってきました。このとき、ノアは地上から水がひいたことを知りました。

13節には、ノアは生涯の第六百一年に箱舟の覆いを取ったとあります。これは、洪水が始まって一年後です。(7:11)

14節から、地上が乾ききるのにまだ一カ月かかったことがわかります。

神はついに、家族を連れて箱舟から出るようノアに命じられました。そして、動物を連れ出し、地上で増えるようにと言われました。

神は、アダムとイブではなく、ノアとその家族を用いて、もう一度やりなおそうとなさったのです。

4. 神が被造物と契約を交わされる。(8:20-22)

8:20 ノアは、【主】のために祭壇を築き、すべてのきよい家畜と、すべてのきよい鳥のうちから幾つかを選び取って、祭壇の上で全焼のいけにえをささげた。8:21 【主】は、そのなだめのかおりをかがれ、【主】は心の中でこう仰せられた。「わたしは、決して再び人のゆえに、この地をのろうことはすまい。人の心の思い計ることは、初めから悪であるからだ。わたしは、決して再び、わたしがしたように、すべての生き物を打ち滅ぼすことはすまい。8:22 地の続くかぎり、種蒔きと刈り入れ、寒さと暑さ、夏と冬、昼と夜とは、やむことはない。」

箱舟を出たノアがまずしたのは、祭壇を築いて神にいけにえをささげることでした。これは、ノアが血のいけにえに関する神の仰せを信頼していた証です。

先週、血のいけにえにはふたつの側面があることをお話しました。

まず、「身代わり」です。通常、人は自分の罪が原因で死ななければなりません。けれども、将来のある出来事に基づき、神は人の身代わりとして罪のない動物の死を受け入れてくださいます。命と引き換えの命です。無実のものが罪のある者のために死ぬのです。

次に、「贖い」です。血は罪の贖いをします。流された血は、人の罪を覆います。神が人をご覧になるとき、そこにもう罪は見られません。神は人を義と見なしてくださり、受け入れてくださいます。

神はそのいけにえの香りをかいで、次のように約束されました。

1. 人の思いが初めから悪であっても、人のせいで地上を呪うことは決してしないと神はおっしゃいました。
2. 二度とこの洪水のように生き物を絶滅させないと神はおっしゃいました。
3. 将来の四季や収穫について、神は約束してくださいました。

創世記8:22 地の続くかぎり、種蒔きと刈り入れ、寒さと暑さ、夏と冬、昼と夜とは、やむことはない。

これが、この地上に起こった史上最悪の災害の話です。では、OICにいる私たちはここからどのようなことが学べるのでしょうか。

適用

この洪水の話は、人の罪に対する「神の裁き」とノアというひとりの人をとおしてこの世が救われた「神の救い」がテーマです。

ノアとその箱舟は、福音のメッセージの描写であり、イエス・キリストの型であることは明らかです。

すべての人は、罪の性質を心に持っている。私たち人間は常に悪事を企ててはありませんが、その性質においてすでに罪人であるということです。私たちは自らの罪に対する神の罰を受けるべき者です。この洪水は、人類の罪に対する神の罰でした。(ローマ3:23)

次に、ノアは神の「恵み」によってこの世を救った。(創世記6:8)

エペソ2:8は、「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」と語ります。

さらに、箱舟は安全な場所であった。箱舟に入った人はみな無事でした。船酔いになったかもしれませんが、神の御怒りを逃れたことは確かです。

イエス・キリストに信仰を置く人も皆、来たるべき神の御怒りを逃れられます。（ヨハネ3：16）

箱舟には戸口がひとつしかなかった。このひとつの戸口を通らずに、箱舟に入る方法はありませんでした。

ヨハネ 10:9 わたしは門です。だれでも、わたしを通って入るなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけます。

イエス・キリストを信じる信仰を持たない限り、罪に対する神の御怒りを逃れる方法はありません。

マタイ 7：13-14 7:13 狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入って行く者が多いのです。 7:14 いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。

ノアが箱舟を作っていた時、人々は彼のことを笑ったでしょう。けれども、実際に洪水が来て、すべてを飲み込んでしまいました。

私たちも、災難がやってくるまで無視してはいけません。今日、イエスのもとに来て、このお方を信じましょう。